

新生児（未熟児）医療情報のシステム化に関する研究

分担研究者 小久保 幸 雄 （愛知県衛生部）
研究協力者 小 川 雄之亮 （名古屋市立大学医学部）
黒 柳 允 男 （愛知県心身障害者コロ
ニー中央病院）
竹 内 徹 （大阪府立母子保健総合
医療センター）
古 川 正 強 （国立療養所香川小児病院）
増 本 義 （国立長崎中央病院）

は じ め に

ハイ・リスク新生児に対する医療はNICUを中心とした地域化によって効果をあげてきた。そして地域の新生児死亡率、乳児死亡率の減少として表われてきている。地域化には医療担当者のみならず、さまざまな人が地域特性に応じて地域の条件を1つひとつ実現にむけてつみかさねてゆく必要がある。

しかし、地域化ができあがった後においても努力と評価を重ねてゆかなければならない。そのため、問題点を掘り起し現状認識を新たにしておくことは大切であろうと思う。

本研究班においては3年間を通じてこうした面の努力をしてきた。3年を終えるにあたり、全国的な地域化の現状の調査と、地域化と共に新生児搬送の重要性から新生児専用救急車についての調査を共同研究として行った。



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



はじめに

ハイ・リスク新生児に対する医療はNICUを中心とした地域化によって効果をあげてきた。そして地域の新生児死亡率、乳児死亡率の減少として表われてきている。地域化には医療担当者のみならず、さまざまな人が地域特性に応じて地域の条件を1つひとつ実現にむけてつみかさねてゆく必要がある。

しかし、地域化ができあがった後においても努力と評価を重ねてゆかなければならない。そのため、問題点を掘り起し現状認識を新たにしておくことは大切であろうと思う。

本研究班においては3年間を通じてこうした面の努力をしてきた。3年を終えるにあたり、全国的な地域化の現状の調査と、地域化と共に新生児搬送の重要性から新生児専用救急車についての調査を共同研究として行った。